

令和2年度（2020）入学
知能情報コース学生
情報工学専攻学生

教員免許状取得の手引

高等学校教諭一種免許状（情報）

高等学校教諭専修免許状（情報）

令和2年4月

琉球大学工学部

工学部において取得できる教員免許状

| コース | 取得できる免許状の種類 | 免許教科 | 基礎資格 |
|---|-------------|------|--------|
| 機械工学 エネルギー環境工学 電気システム工学 電子情報通信 社会基盤デザイン 建築学 | 高等学校教諭一種免許状 | 工業 | 学士（工学） |
| 知能情報 | 〃 | 情報 | 〃 |

一種免許取得に必要な最低取得単位数

| 免許状の種類 | 免許状取得に必要な科目及び最低取得単位数 | 備考 |
|---------------------|---|--|
| 高等学校教諭一種 免許状（工業） | <p>1. 教科及び教科の指導法に関する科目 24 単位 工学部開設の指定科目 工学概論と職業指導（工業）は必ず履修のこと</p> <p>2. 教育の基礎的理解に関する科目等 23 単位 教育学部開設の指定科目（科目番号全教〇〇〇）</p> <p>3. 大学が独自に設定する科目 12 単位</p> <p>4. その他の要取得科目 日本国憲法（憲法概論） 2 単位 体育（健康運動系科目） 2 単位 外国語コミュニケーション（大学英語） 4 単位 情報機器の操作（情報科学演習） 2 単位 教職指導 1 単位</p> | <p>教科の指導法に関する科目と教育の基礎的理解に関する科目等及び大学が独自に設定する科目は工学部開設指定科目（知能情報コース開設科目を除く）の単位で代替可</p> <p>教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定められた科目 琉大独自科目</p> |
| 高等学校教諭一種 免許状（情報） | <p>1. 教科及び教科の指導法に関する科目 24 単位 知能情報コース開設の指定科目</p> <p>2. 教育の基礎的理解に関する科目等 23 単位 教育学部開設の指定科目（科目番号全教〇〇〇） 教職実践演習（高）は工学部開設</p> <p>3. 大学が独自に設定する科目 12 単位 教職総合演習（情報）と知能情報コース開設指定科目</p> <p>4. その他の要取得科目 日本国憲法（憲法概論） 2 単位 体育（健康運動系科目） 2 単位 外国語コミュニケーション（大学英語） 4 単位 情報機器の操作（情報科学演習） 2 単位 教職指導 1 単位</p> | <p>教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定められた科目 琉大独自科目</p> |

理工学研究科工学系専攻において取得できる教員免許状

| 専攻 | 取得できる免許状の種類 | 免許教科 | 基礎資格 |
|------------------------------|-------------|------|---------------------------|
| 機械システム工学 環境建設工学 電気電子工学 | 高等学校教諭専修免許状 | 工業 | 高等学校教諭一種免許状（工業） 修士（工学） |
| 情報工学 | 〃 | 情報 | 高等学校教諭一種免許状（情報） 修士（工学） |

専修免許取得に必要な最低取得単位数

| 免許状の種類 | 免許状取得に必要な科目及び最低取得単位数 |
|-----------------|-----------------------------------|
| 高等学校教諭専修免許状（工業） | 大学が独自に設定する科目（理工学研究科指定科目） 24 単位 |
| 高等学校教諭専修免許状（情報） | 大学が独自に設定する科目（理工学研究科指定科目） 24 単位 |

1. 教科及び教科の指導法に関する科目（知能情報コース開設指定科目）

| 免許法施行規則に定める科目 区分等 | 左記に対応する開設授業科目 | 単位数 | | 備考 |
|--------------------------------|----------------------|---------|----|----|
| | | 必修 | 選択 | |
| 情報社会・情報倫理 | 技術者の倫理 | 2 | | |
| コンピュータ・情報処理（実 習を含む） | アルゴリズムとデータ構造 | 2 | | |
| | コンピュータアーキテクチャ | 2 | | |
| | コンピュータシステム | 2 | | |
| | プログラミングⅠ | 2 | | |
| | プログラミングⅡ | 2 | | |
| | プログラミング演習Ⅰ | 1 | | |
| | プログラミング演習Ⅱ | 1 | | |
| | データサイエンス基礎 | 4 | | |
| | デジタル制御論 | | 2 | |
| 情報システム（実習を含む） | データベースシステム | 2 | | |
| | オペレーティングシステム | 2 | | |
| | ソフトウェア工学 | | 2 | |
| | デジタルシステム設計 | | 2 | |
| 情報通信ネットワーク（実習 を含む） | 情報ネットワークⅠ | 2 | | |
| | 情報ネットワークⅡ | | 2 | |
| | 情報理論 | | 2 | |
| | ○インターネットアーキテクチャ | 2 | | |
| | ネットワークセキュリティ | | 2 | |
| マルチメディア表現・マルチ メディア技術（実習を含む） | ○画像処理 | 2 | | |
| | 人工知能 | | 2 | |
| | ○ヒューマンコンピュータインタラクション | 2 | | |
| 情報と職業 | キャリアデザイン | 2 | | |
| | プロジェクトデザイン | 2 | | |
| 各教科の指導法（情報機器及 び教材の活用を含む） | ○情報科教育法 A | 2 | | |
| | ○情報科教育法 B | 2 | | |
| 合 計 | | 24 単位以上 | | |

注：○は免許上の必修科目

2. 教育の基礎的理解に関する科目等（教育学部開設科目）

| 免許法施行規則に定める科目区分等 | | 左記に対応する開設授業科目 | | 備 考 |
|-------------------------------------|----|---------------------------|--------|--------------------|
| 科 目 | 単位 | 授 業 科 目 | 単 位 | |
| 教育の基礎的理解に関する科目 | 10 | ○教育原理 | 2 | } 2科目から1科目 } 必修 |
| | | ○教職入門 | 2 | |
| | | 教育社会学 A | 2 | |
| | | 教育社会学 B | 2 | |
| | | 教育の社会史 | 2 | |
| | | ○教育心理学 | 2 | |
| | | ○特別の支援を必要とする多様な子どもへの理解と支援 | 1 | |
| | | ○教育課程 | 1 | |
| 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 8 | ○総合的な学習の時間 | 1 | } 2科目から1科目 } 必修 |
| | | ○特別活動論 | 2 | |
| | | ○教育方法 | 1 | |
| | | ○生徒指導論（進路指導を含む） | 2 | |
| | | 学校カウンセリング 教育相談 | 2 2 | |
| 教育実践に関する科目 | 5 | 学校教育実践指導 I | 1 | 工学部開設 |
| | | ○学校教育実践指導 II | 1 | |
| | | ○高等学校教育実習 | 2 | |
| | | ○教職実践演習（高） | 2 | |
| 合 計 | | 23 単位以上 | | |

注：○は免許上の必修科目

学校教育実践指導 I は免許上選択科目であるが、高等学校教育実習の前提科目なので必ず履修すること

3. 大学が独自に設定する科目

| 開設授業科目 | 単位 | 備 考 |
|---|----|---------|
| 教職総合演習（情報） | 2 | 工学部開設 |
| その他、最低修得単位数を超えて取得した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」の単位をもって充てる。 | | |
| 合 計 | | 12 単位以上 |

4. その他の要修得科目

【教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定められた科目】

| 免許法施行規則に定める科目 区分等 | | 左記に対応する開設授業科目 | | 備考 |
|----------------------|----|--------------------------|--------|------------|
| 科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | |
| 日本国憲法 | 2 | ○憲法概論 | 2 | |
| 体育 | 2 | 健康・スポーツ科学 運動・スポーツ科学演習 | 2 2 | 2科目から1科目必修 |
| 外国語コミュニケーション | 2 | ○大学英語 | 4 | |
| 情報機器の操作 | 2 | ○情報科学演習 | 2 | |
| 合 計 | | 10 単位以上 | | |

注：○は免許上の必修科目

【琉球大学独自設定教職科目】

| 科目区分 | 授業科目 | 単位 | 備考 |
|-----------------|------|----|----|
| 教育学部共通科目（教職等科目） | 教職指導 | 1 | |

5. 単位の修得方法

- ・次節の履修モデルを参照し、それぞれ定められた単位を修得する。
- ・教育学部開設の教育の基礎的理解に関する科目等の登録は、各学期の授業時間割配当表を確認し、登録申請期間内に教務情報システム（Web）で履修登録申請をする。登録申請（抽選）の結果は教務情報システムで確認すること。
- ・教育実習について
 - ①「高等学校教育実習」は4年次前学期に実習校で2週間実施する。
 - ②「高等学校教育実習」の仮登録は前年度11月に行うので、工学部掲示板をよく確認すること。前年度に各自で実習校に内諾を得ること。ただし内諾申し込み時期は実習校により異なるので、必ず確認すること。沖縄県外では前年度4月開始の場合が多い。
 - ③「高等学校教育実習」の本登録は4年次前学期に行う。
 - ④教育実習登録時に以下の(1)～(3)の条件を満たすことが必要である。
 - (1)以下の科目を履修済みであること。
 「教職指導」「教職入門」「教育原理」「教育心理学」「教育相談 or 学校カウンセリング」「教育課程」「教育方法」「生徒指導論（進路指導を含む）」「各教科の指導法」4単位（2単位まで同時履修可）
 「学校教育実践指導Ⅰ」「教科に関する専門的事項」に係る科目に関して18単位以上
 - (2)以下の科目を履修済み又は同時履修中であること。
 「教育社会学A又はB」「特別活動論」「特別な支援を必要とする多様な子どもへの理解と支援」
 - (3)以下の科目を同時履修すること。
 「学校教育実践指導Ⅱ」

⑤教育実習経費負担金は本人負担となる。

※免許法上の最低修得単位数より本学の最低履修単位数が多いが、これは教育実習前の前提科目があるためであり、本学の最低修得単位数に従って修得すること。

6. 教職課程履修モデル（下線付き科目は免許上またはコース必修科目）

| | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 |
|---|---|--|---|---|
| 教科及び教科の指導法に関する科目（大学が独自に設定する科目を含む） 36 単位 | <u>技術者の倫理</u> <u>プログラミングⅠ</u> <u>プログラミングⅡ</u> <u>プログラミング演習Ⅰ</u> <u>プログラミング演習Ⅱ</u> | <u>コンピュータシステム</u> <u>コンピュータアーキテクチャ</u> <u>アルゴリズムとデータ構造</u> <u>オペレーティングシステム</u> <u>データベースシステム</u> <u>情報ネットワークⅠ</u> <u>プロジェクトデザイン</u> <u>データサイエンス基礎</u> | <u>インターネットアーキテクチャ</u> <u>画像処理</u> <u>ヒューマンコンピュータインタラクション</u> <u>キャリアデザイン</u> <u>情報科教育法A</u> | <u>情報科教育法B</u> <u>教職総合演習（情報）</u> |
| 教育の基礎的理解に関する科目 10 単位 | <u>教育原理</u> <u>教職入門</u> | <u>教育心理学</u> <u>教育課程</u> | <u>教育社会学A</u> <u>特別の支援を必要とする多様な子どもへの理解と支援</u> | |
| 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 8 単位 | | <u>教育方法</u> | <u>総合的な学習の時間</u> <u>特別活動論</u> <u>生徒指導論（進路指導を含む）</u> <u>学校カウンセリング</u> | |
| 教育実践に関する科目 5 単位 | | | <u>学校教育実践指導Ⅰ</u> | <u>学校教育実践指導Ⅱ</u> <u>高等学校教育実習</u> <u>教職実践演習（高）</u> |
| その他 11 単位 | <u>憲法概論</u> <u>大学英語</u> <u>教職指導</u> | <u>運動・スポーツ科学演習</u> <u>情報科学演習</u> | | |
| 単位数 | 19 | 26 | 21 | 9 |

7. 履修カルテと教職ポートフォリオ

教職関連科目履修を記録し、振り返りを実践するために、1年次から履修カルテの作成（Webシステムへの入力）が必要となる。履修カルテは、「授業リフレクションシート」「自己成長評価シート」「これまでのまとめと今後の課題」から構成される。

授業リフレクションシートは、学生が、教職関連科目ごとに「自己評価（振り返りと具体的な自己成長等を記す）」と「教員になって実践場で活用できると考えた事項（実践したいこと等）」を記し、「教職に関する学外実習（教職指導や教職体験）・ボランティア経験・教育実習等の状況」についても記す。指導教員は、授業科目に関連する教職ポートフォリオ（詳細は後述）の一覧表、および内容物を確認する。

自己成長評価シートは、学生が、教員に必要な資質能力の各項目に10段階で自己評価し、教職を目指す上で課題と考えている事柄について記す。指導教員は、それに対してコメントする。

履修カルテの実施時期は、各学期の最初の月とし、学年別懇談会等の機会を活用して実施する。ただし、自己成長評価シートについては、教職実践演習（高）の終了時にも実施する。

| 年次 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | | |
|--------------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 学期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 演習後 |
| 授業リフレクションシート | | 一年前期分 | 一年後期分 | 二年前期分 | 二年後期分 | 三年前期分 | 三年後期分 | 四年前期分 | |
| 自己成長評価シート | | | 一年次分 | | 二年次分 | | 三年次分 | | 演習終了時 |

教職ポートフォリオは、教職課程に関連する資料等をすべて保存し、整理し、ファイルしておくもので、学生の履修カルテの記入時や、指導教員による確認時、教職実践演習（高）等において活用する。

保存するものは、①教職課程で「これだけ学んだ」と自分でアピールしたい資料やその証し等、②教員候補生としての自己成長がわかるもの。例えば、履修カルテのコピー（必須）の他、レポートのコピー、講義資料、参観した際の写真（デジカメで撮ってプリントアウト）、教材でつくったものや写真、友だちからの評価（様式は自由）、自己評価（様式は自由）、講義の所感（様式は自由）、学習指導案、実習先でもらった資料等々が挙げられる。

教職ポートフォリオは、教員による「授業リフレクションシート」や「自己成長評価シート」の確認時に当該学期分を提示する。その際、内容物は整理され、内容物に関する一覧表（様式は自由）が作成してある必要がある。

教職ポートフォリオの活用は、①「授業リフレクションシート」や「自己成長評価シート」の作成、および指導教員による確認時における活用、②教職実践演習における活用が主な活用であるが、その他にも、③教育実習などの実践場面や他の講義において参考資料としての活用、④卒業後、自分自身の教員としての自

己成長について考える際に活用するなど、幅広い活用が考えられる。

教職ポートフォリオは琉球大学仕様のもをを生協で販売するので購入しておくこと。ファイル表紙に貼る教職ポートフォリオ専用シールの購入も忘れないこと。

8. 専修免許に関する科目（理工学研究科情報工学専攻開設指定科目）

| 免許法施行規則に定める科目 区分等 | 左記に対応する開設授業科目 | 単位数 | | 備考 |
|----------------------|-----------------|---------|----|----|
| | | 必修 | 選択 | |
| 大学が独自に設定する科目 | コンピュータシステム論 | | 2 | |
| | ソフトウェアシステム論 | | 2 | |
| | マルチメディア情報処理論 | | 2 | |
| | システムアーキテクチャ論 | | 2 | |
| | 知能システム論 | | 2 | |
| | アドバンスト制御論 | | 2 | |
| | 知能ロボット論 | | 2 | |
| | 複雑系工学論 | | 2 | |
| | 数理モデル論 | | 2 | |
| | 情報ネットワーク論 | | 2 | |
| | データマイニング論 | | 2 | |
| | 情報工学特別研究Ⅰ | 1.5 | | |
| | 情報工学特別研究Ⅱ | 1.5 | | |
| | 情報工学特別研究Ⅲ | 1.5 | | |
| | 情報工学特別研究Ⅳ | 1.5 | | |
| | 情報工学特別演習Ⅰ | 1.5 | | |
| | 情報工学特別演習Ⅱ | 1.5 | | |
| | 情報工学特別演習Ⅲ | 1.5 | | |
| | 情報工学特別演習Ⅳ | 1.5 | | |
| | プロジェクト・マネジメント演習 | | 2 | |
| | 実践演習Ⅰ | | 2 | |
| | 実践演習Ⅱ | | 2 | |
| | 実践演習Ⅲ | | 2 | |
| | 他分野セミナーⅠ | | 2 | |
| | 他分野セミナーⅡ | | 2 | |
| | 合 計 | 24 単位以上 | | |